

限りない愛と感動の讃歌。

初の本格的音楽映画。

炎の第五楽章

日本フィルハーモニー物語

日本フィルハーモニー交響楽団・総出演

日本フィルの苦難の歴史は、放送局の援助打ち切り宣言から始まった。常任指揮者堂本一生が長い討論の末、幾多の仲間と共に去り、残った運営し音楽を続けることを誓った。

それはどちらにとつても厳しいギリギリの選択であつた。



入団間もない昇の心は揺れた。残る自信はないが、時の流れに全てを任せた。伸子にめぐり逢つたのもそんな時であつた。

伸子は昇と同郷、長野県駒ヶ根の出身であつた。

七年振りであう伸子は、成長してゐたのだ。

そんな伸子に昇はひかれ、一夜を語り明した。

「運命は自分



の意志で切り拓くものという伸子の言葉に昇は勇気づけられ、次第に日本フィルの一員としての自分が感じられるようになる。

数日後、伸子から手紙が届いた。

「アルプスには日本フィルの新世界が似合います。今手紙を書いている私の耳に弦の音がきこえて来ます。」

この小さな町に日本フィルを招いて演奏会を成功させようという壮大な計画が……

各地を飛び回り数々の演奏会をこなしてきた楽員は疲労こんぱいの状況だつた。

そんな時、昇の先輩仲本の急死。

放送局の演奏会へのしめつけ。

指揮者が決らない果して演奏会は出来るのだろうか。

そして、昇と伸子、日本フィルは



旗を振る棹は重いんだ
俺はただ、……

ただ音楽ができればいいんだ！



風間 杜夫
田中 裕子
内藤 武敏
井川比佐志

下元 勉
小池 朝雄
殿山 泰司
伊藤 孝雄
菅野 忠彦
中野 誠也
浜田 光夫
鈴木ヒロミツ
ジリー・藤尾
志村 喬
三遊亭 円楽
松崎 真
黒部 幸英
福原 圭一
吉田 次昭
長塚 京三
小林 勝也
前田 吟
佐藤オリエ
岩崎加根子
寺田 路恵
長谷 直美
日色ともゑ



原作 今崎曉巳
監督 神山征二郎
指揮 渡辺暁雄

企画製作 ● エヌ・アール企画 配給 ● にっかつ

撮影 ● 森 勝 照明 ● 野口素軒 録音 ● 橋本文雄 編集 ● 近藤光雄 美術 ● 中澤克己
プロデューサー ● 結城良昭 音楽監督 ● 林 光



原作●今崎暁巳「友よ未来をうたえ」
監督●神山征二郎／指揮●渡辺暁雄



来をうたえ」「続・友よ未来をうたえ」(労働旬報社刊)の映画化。
主演に風間杜夫と田中裕子のフレッシュコンビを中心に、脇を固める

ベテラン陣。そして渡辺暁雄指揮日本フィル楽団員の総出演、監督は神山征二郎、音楽監督に林光をむかえ初の本格的音楽映画の傑作として大きな話題となっています。
演奏される曲目は、ドヴォルザークの「新世界より」、バーバー「弦楽のためのアダージョ」、ドヴォルザーク「弦楽四重奏曲へ長調・アメリカ」、モーツァルト「弦楽四重奏曲K387」、林光のテーマ曲「ロマンズ」

炎の第五楽章

日本フィルハーモニー物語

わたしたちから音楽と生きる権利を奪うことはできない!

日本フィルハーモニー交響楽団総出演
企画製作●エヌ・アール企画／配給●につかつ

かいせつ

日本フィルハーモニー交響楽団は、一九五六年に創立し、わが国の代表的なオーケストラのひとつとして、中広い活動を続けていました。

しかし、創立16年目の一九七二年三月、経営者の放送資本は日本フィルへの援助を打ち切ると宣言。存続を希望する楽員や広範な世論の中、同年六月にはオーケストラ財団を解散、全楽員は解雇されました。



以来、日本フィルは「市民とともに」を合言葉として、幾多の困難の中、演奏活動を続けていた姿をルポルタージュした今崎暁巳著「友よ未来をうたえ」

試写会の感想より

●雨にうたれて自信をなくしてゆく主人公。本当の人間の姿だと思えます。正しい事、しなくてはならない事と確信を持っていても、揺れ動くのが心です。でもそれを愛の力で乗り越えて迎えた第四楽章、素晴らしいです。(会社社員・女・22才)

●画面と音楽が一体となっているのに驚き感激した。こんなに映画の中で音楽が心に迫ってきたのははじめてである(会社社員・男21才)

●よかった一言です。日フィルのことはうわさでは知っていましたが、これほど大変だったとは。はやく、「楽しく豊かな音楽」を演奏できるよう祈っております。風間、田中のさわやかコンビ、信州の四季のすばらしさ、久しぶりに気持ちのいい日本映画でした。(無職・女・28才)

●さわやかな感動の連続でした。音楽が生きていて、からだの中を駆けめぐらうずきを感じました。指揮者の渡辺暁雄さんの目の美しさにうたれました。圧巻は第四楽章の演奏場面で、すばらしい映画でした。(団体職員・男・51才)

●感動しました。素晴らしいものを続けてゆこうとしている人達が、どうしてあんな苦勞をしなければならぬのでしょうか。若い人達に沢山観てほしいと思いました。主演の風間杜夫さん、とても良かったです。友達を誘って、または非観たいと思います。(グラフィックデザイナー・女・24才)

●今までこんなすばらしい「新世界」はきいたことがなかった。映画にはえがけなかった部分の(日フィルの人たち)苦勞もたくさんあるのだろうけど、みなさんの連帯にはあらためて勇気づけられた。最後の第四楽章のシーンと信州の自然と、そしてあの子供たちのうたに、あつい涙を流してしまいました。(会社社員・男・28才)

9月中旬感動のロードショー

新宿京王地下 (356) 3518

伊勢丹斜め向い・三越ならび

特別ご鑑賞券1100円(当日一般1400円/学生1200円の処)

劇場窓口にて発売中!

日・祝	10:00	12:00	2:15	4:30	6:45
平日		12:00	2:15	4:30	6:45